

第41回 全国トラックドライバー・コンテスト

講 評

平成21年10月26日

(社) 全日本トラック協会

専務理事 細野 高弘

第41回全国トラックドライバー・コンテストは、一昨日、昨日の2日間にわたり、前回より12名多い144名の選手が参加して、茨城県ひたちなか市の自動車安全運転センター安全運転中央研修所で開催されました。曇り空の中、寒い風が吹き続けましたが、選手の皆さん風をものともせず元気に競技に取り組んでいたことが印象的でした。

2日間の競技におきまして、休日にもかかわらず、競技の審査をお願いいたしました自動車安全運転センター安全運転中央研修所の皆様のご配慮と熱意に改めて感謝申し上げます。また、整備点検競技のアシスタントをつとめていただいた各社の皆様にもお礼を申し上げます。

それでは講評を申し上げます。

最初に、学科競技であります。満点の450点が4トン部門に1名、440点が4トン部門5名、11トン部門4名、トレーラ部門1名、女性部門1名の11名、総平均が403点という好成績でした。

問題別に見ると、交通法規の19番、車間距離の保持の問題で、常に必要な距離を保持することが義務づけられていることが徹底されていないようでした。32番の道路外に出る場合の左折の仕方ですが、直前に道路の左側端に寄るのではなく、あらかじめ寄ることが規定されております。36番の路線バス優先通行帯の運転については、法令のままで正解ですが、誤解されたようです。

構造機能の3番、小型自動車の高さは2.1メートル以下ではなく2メートル以下です。また、構造の6番の車体表示についても、法令通りでしたが、誤解されたようです。

運転常識の7番、酒気帯び運転および過労運転の場合の処分基準ですが、最近の見直しにより変更された規定です。最新の基準にもしっかりと目を通していただくようお願いいたします。

次に、整備点検競技では、144名のうち昨年より多い60名の方が200点満点でした。前回と同じく、女性部門を含めて、大半の方が20点以内の減点にとどまっています。

見落としが多かったのは、昨年と同じくタイヤの空気圧不足でした。タイヤで減点された方を見ると、作為箇所を指摘しなかった件数が46件、一方、正常なタイヤを誤って空気圧不足と指摘した件数が43件でした。毎年、申し上げているように、点検ハンマーの叩き方が弱くて判断がつかない方が多かったです。

比較的多い誤りとしては、サイドウinkerの見落とし等灯火器の不具合に関して未指摘、未点検が、34件ありました。11トン部門、トレーラ部門にはディスクホイールの取り付け異常が設定されておりましたが、6件の未指摘がありました。昨今、問題となっている重要な部分であるにもかかわらず指摘できなかったのが残念な点でありました。例年のとおり、エンジンオイルの確認の手間取り、誤判断、ワイパー不良の未指摘も、見受けられました。

運転競技では、満点の方は、4トン部門で3名、11トン部門で6名、トレ

ーラ部門2名、女性部門1名の計12名でした、昨年の9名に比べて大幅に向上しております。

審査官の方からの報告では、本年は総じて過去数年間の中で優秀であり、最近の状況を反映してアイドリングストップ等環境についての意識が高いとの評価をいただきました。しかしながら、慎重な運転を意識するあまり、法規走行競技での時間超過が25件見受けられました。また、途中まで良い成績にもかかわらず車庫入れで接触してしまうという残念な例も何件か見受けられました。

その他、見通しの安全確認を意識するあまり、一時停止線の位置を忘れてしまう、ブレーキの余裕のある使い方ができない、信号を出すタイミングが遅く相手に知らせるという行動ができない等のご指摘をいただいております、普段の運転から気をつけていただくことが必要というご指摘もいただいております。

以上の競技別得点の合計の最高得点は、1000点満点で990点で、2位とは同点でしたが、所定の方法により決めるという、まさに大接戦でした。その他、すべての部門で上位同点の方が複数ありました。

各部門の入賞者の氏名は、このあと発表していただきますが、残念ながら入賞できなかった皆さんも含めて、全国大会に参加したという誇りを胸に、事故ゼロを目指して、これからも交通安全と環境にやさしい運転の励行に努め、広く社会に貢献されるようお願いいたします。

以上で講評を終わります。